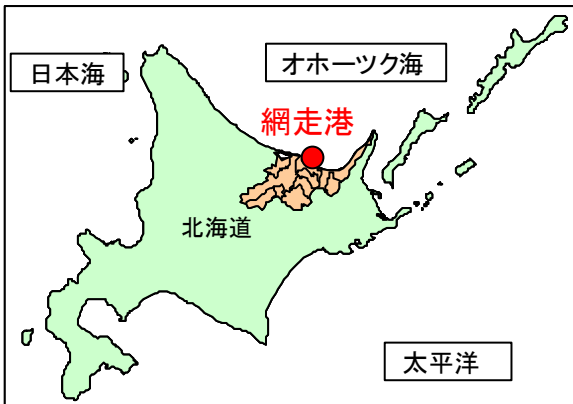


網走港 港湾計画 改訂

平成21年7月2日
交通政策審議会
第35回港湾分科会
資料1

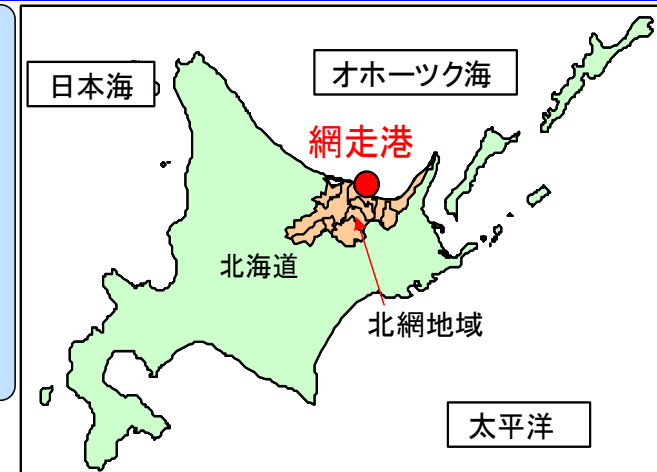


網走港の概要

平成10年改訂 目標年次：平成20年代前半

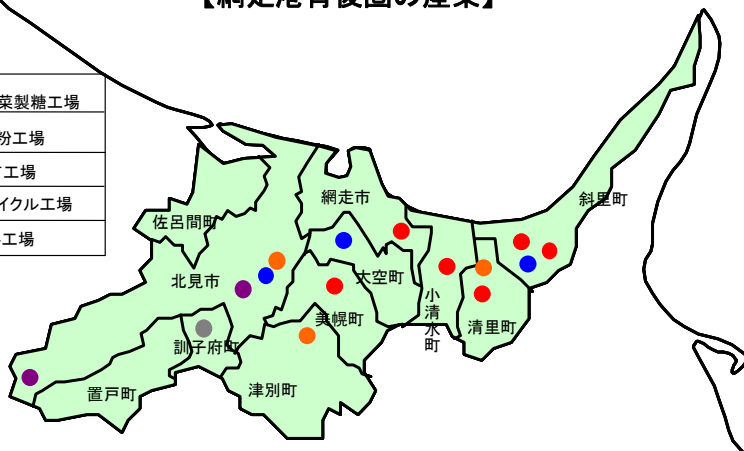
今回計画改訂 目標年次：平成30年代前半

- 網走港は、昭和53年4月に重要港湾に指定された。
- 網走港は、北海道北東部、オホーツク海に面した網走川河口部に位置し、主に北見市、網走市を核とする北網地域の産業・生活を支える港湾である。
- 主な取扱貨物は、小麦、原木、石炭、石油製品、水産品が挙げられる。
- 背後圏には、農林水産業を中心とした産業が発展しており、網走港に輸入される原木は木製品加工原料、石炭は製糖工場の燃料として利用。また、背後圏で生産・収穫される小麦が多く移出されている。
- 世界自然遺産知床をはじめ、観光資源に恵まれていることから、クルーズ船が寄航している。
- 冬期の流氷着岸時期には流氷観光砕氷船「おーら」が網走港を拠点として運航し、平成19年には、10万余人が乗船している。



【網走港背後圏の産業】

- てん菜製糖工場
- でん粉工場
- 製材工場
- リサイクル工場
- 肥料工場



石炭輸入の荷役状況



寄港するクルーズ船

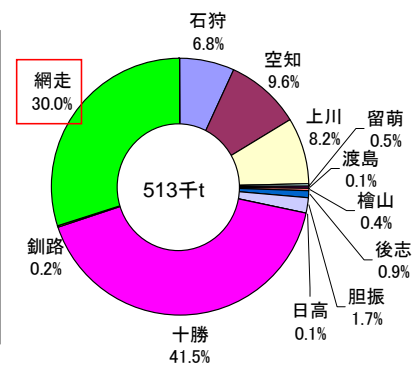


流氷観光砕氷船「おーら」

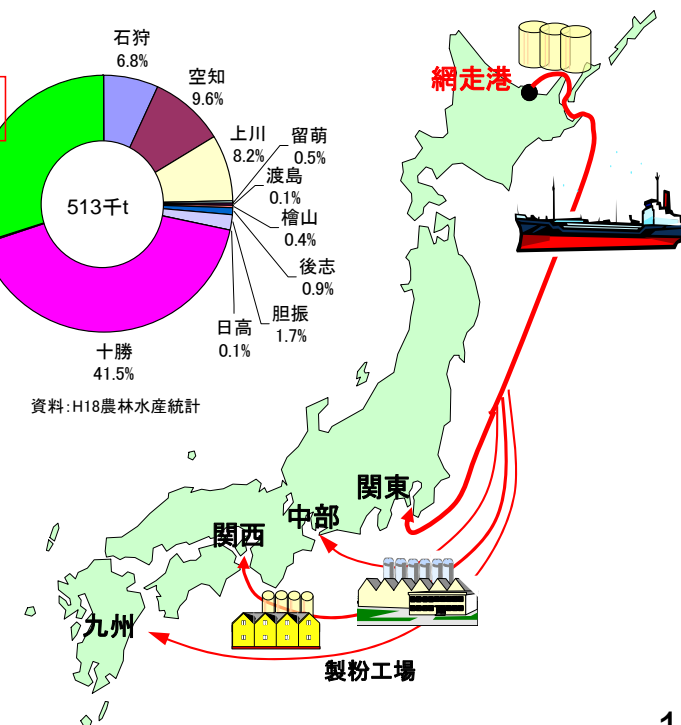


網走支庁管内における小麦の生産量は、北海道全体の約3割を占め、網走港より関東方面をはじめ全国の製粉工場に移出されている。

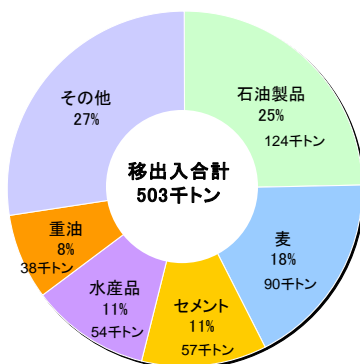
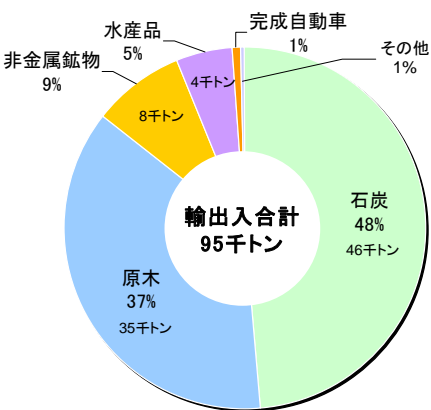
【小麦の支庁別生産比率】



【網走港からの小麦移出】



網走港の品別取扱貨物量 (平成19年)



網走港の現況

【帽子岩】

大正12年に竣工して以来、現在も使用するケーソンドックで、**網走港のシンボリックな存在**。平成18年度に土木遺産として、土木学会より選奨。

帽子岩や隣接した防波堤には、多くの釣り客が訪れる。



帽子岩ケーソンドック

【港町地区 -5.5m岸壁】

主に小麦を取扱っているが、岸壁の供用開始後40年を経過しており、**老朽化が著しい**。また、前面水域において、静穏度が十分確保されていないとして、**利用者から静穏度の向上が要請**されている。

背後圏の小麦生産増に伴い、**サイロ増設のための土地確保**を要請されている。



貨物(小麦)船利用状況

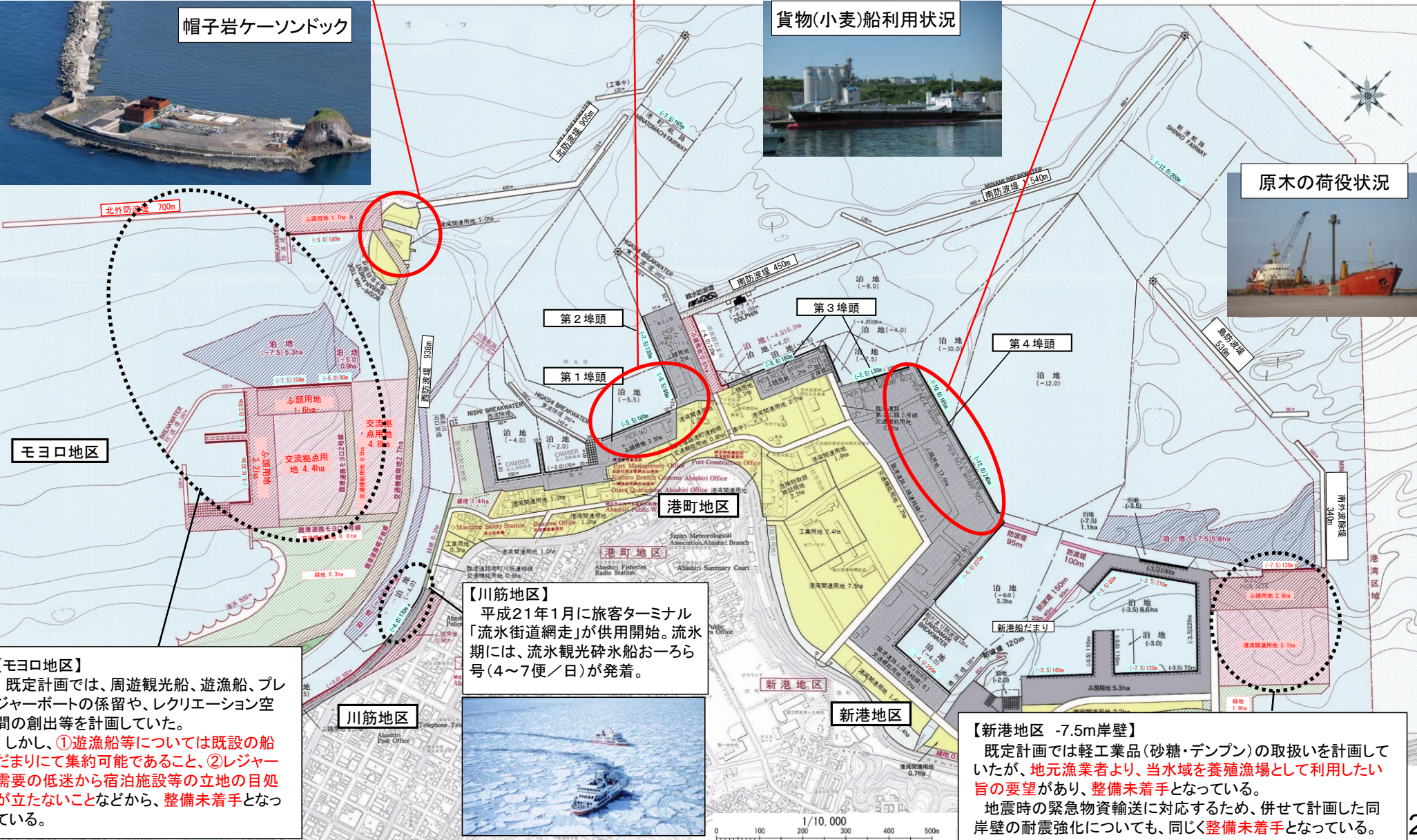
【新港地区 -12m、-10m岸壁】

主に原木及び石炭を取扱っている。また、大型クルーズ船の係留に利用されている。

一方、前面水域において、静穏度が十分確保されていないとして、**利用者から静穏度の向上が要請**されている。



原木の荷役状況



【モヨロ地区】

【モヨロ地区】

既定計画では、周遊観光船、遊漁船、プレジャーボートの係留や、レクリエーション空間の創出等を計画していた。

しかし、①遊漁船等については既設の船だまりにて集約可能であること、②レジャー需要の低迷から宿泊施設等の立地の目処が立たないことなどから、**整備未着手**となっている。

【川筋地区】

平成21年1月に旅客ターミナル「流水街道網走」が供用開始。流水期には、流水観光砕氷船おーろら号(4~7便/日)が発着。



【川筋地区】

【新港地区】

【新港地区 -7.5m岸壁】

既定計画では軽工業品(砂糖・デンプン)の取扱いを計画していたが、**地元漁業者より、当水域を養殖漁場として利用したい旨の要望**があり、**整備未着手**となっている。

地震時の緊急物資輸送に対応するため、併せて計画した同岸壁の耐震強化についても、**整備未着手**となっている。

港湾計画の基本方針

◆課題及び要請

【物流】

- ①北網圏の市民生活や産業活動に伴うバルク系貨物の効率的な取扱いを行うための物流空間の再編

【交流・環境】

- 地域の健康で心豊かな生活に資する港として、
- ②市民や観光客の交流拠点の創造
- ③遊漁船やプレジャーボートの適正な保管場所の確保
- ④網走川沿いの歴史的・文化的背景等に配慮して進める周辺環境との調和
- ⑤国内外の観光客に夏のオホーツク海の魅力を享受するため、女満別空港と連携したクルーズネットワーク港としての施設の充実

【安全】

- ⑥大規模地震発生時における緊急物資輸送及び物流機能維持のための対策の充実・強化
- ⑦港内における船舶の安全な航行や安心かつ効率的な荷役確保のための静穏度の向上

◆計画の基本方針(目標年次:平成30年代前半)

【物流】内貿物流機能の強化

- ①北網圏の内貿物流需要に対応するため、ふ頭用地の拡大と、物流機能の拡充・強化 (港町)

【交流・環境】港湾観光拠点機能の強化と「みなとまちづくり」

- ②市民・観光客が憩い・集い・楽しめる親水空間を創造 (港町・川筋・モヨロ・新港)
- ③海洋性レクリエーションの拠点としての機能を確保 (川筋・モヨロ)
- ④川筋地区を中心とした自然環境の保全

【安全】安全・安心な港湾機能充実

- ⑤市街地近傍での耐震強化岸壁の計画など、大規模地震対策を推進 (港町)
- ⑥船舶の安全な航行や停泊、荷役作業の安全を確保するため、防波堤の延伸を計画 (新港・港町)

◆取扱貨物量の見直し

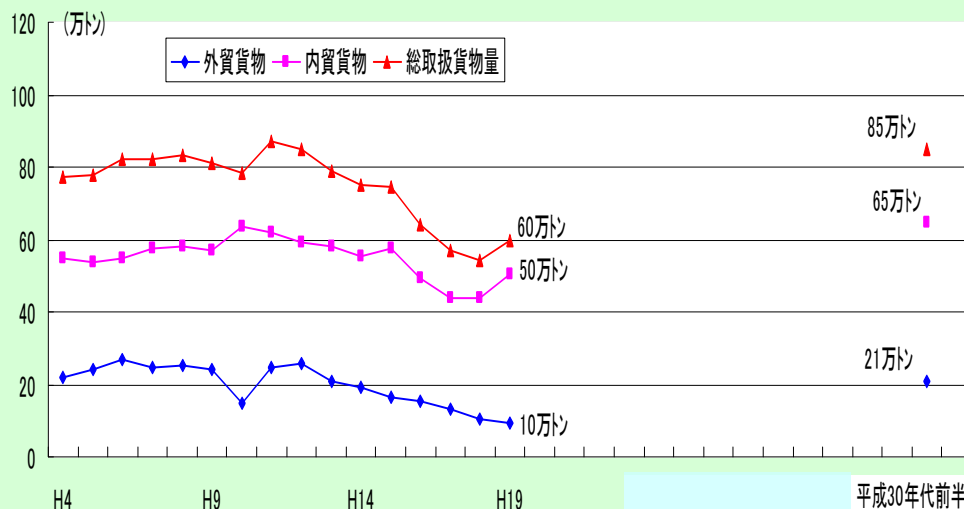
○目標年次(平成30年代前半)における取扱貨物量の見直し

外貿	21万トン (平成19年)	10万トン
内貿	65万トン (平成19年)	50万トン
合計	85万トン (平成19年)	60万トン

○主な増加要因

- ・製糖工場における石油から石炭への燃料転換による**石炭**の取扱い増加 (輸入)
- ・スクラップ工場進出に伴う**金属くず**及び背後圏立地企業で生産される**軽工業品貨物**(砂糖・デンプン)の取扱開始と、背後圏の小麦生産量の増加による**小麦**の取扱いの増加 (移出)

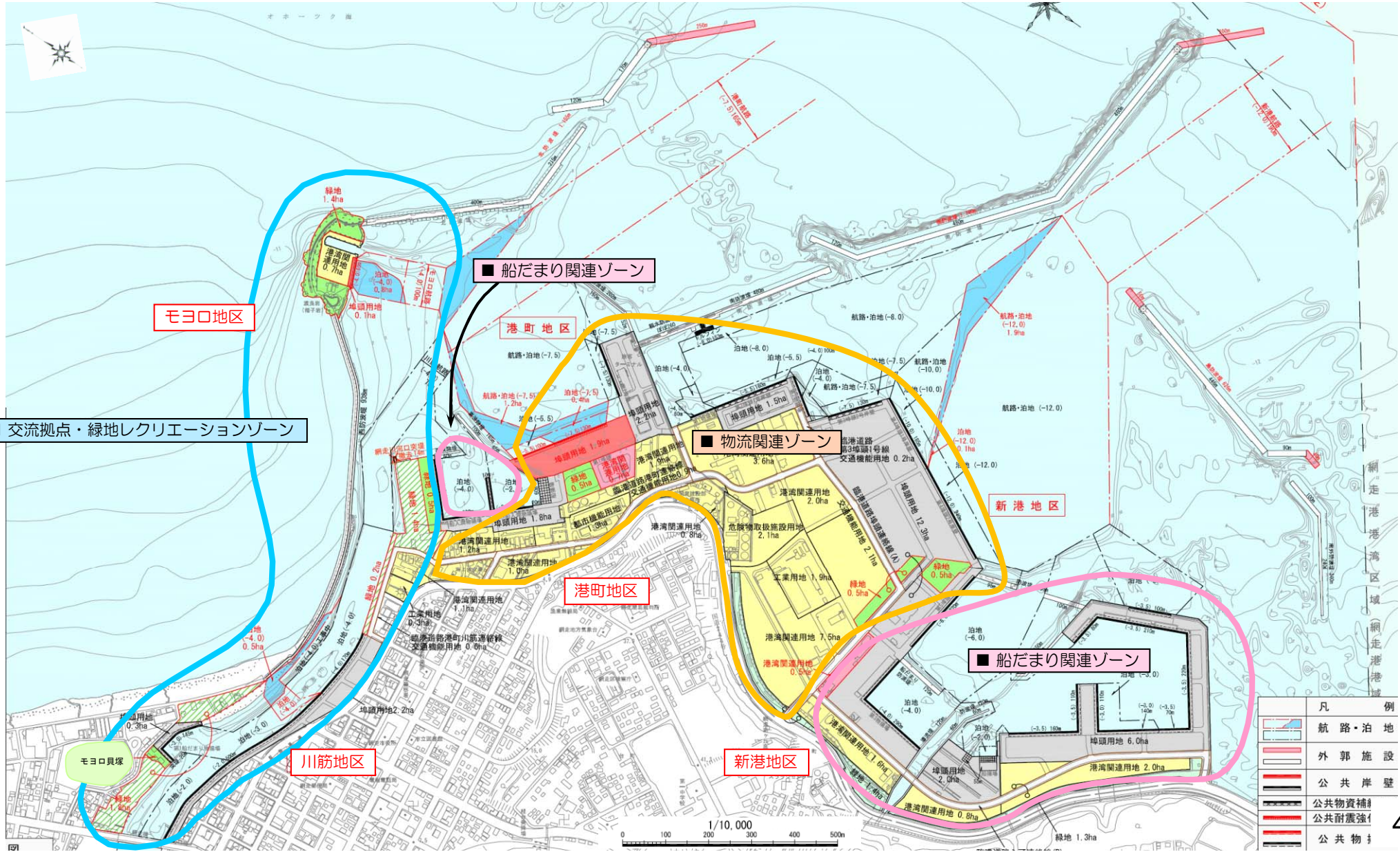
網走港の取扱貨物量の実績と推計値



港湾空間利用の考え方(ゾーニング)

○計画の基本方針を踏まえるとともに、物流・交流・環境・安全の多様な機能を適正に配置し、効率性、快適性、安全性の高い港湾空間を形成するため、港湾空間を以下のように利用する。

- 物流関連ゾーン : 港町地区東部から新港地区西部に至るゾーン
- 船だまり関連ゾーン : 港町地区西部及び新港地区東部
- 交流拠点・緑地レクリエーションゾーン : モヨロ地区と川筋地区からなるゾーン



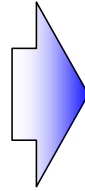
港湾計画改訂の概要(港町地区)

◆基本方針

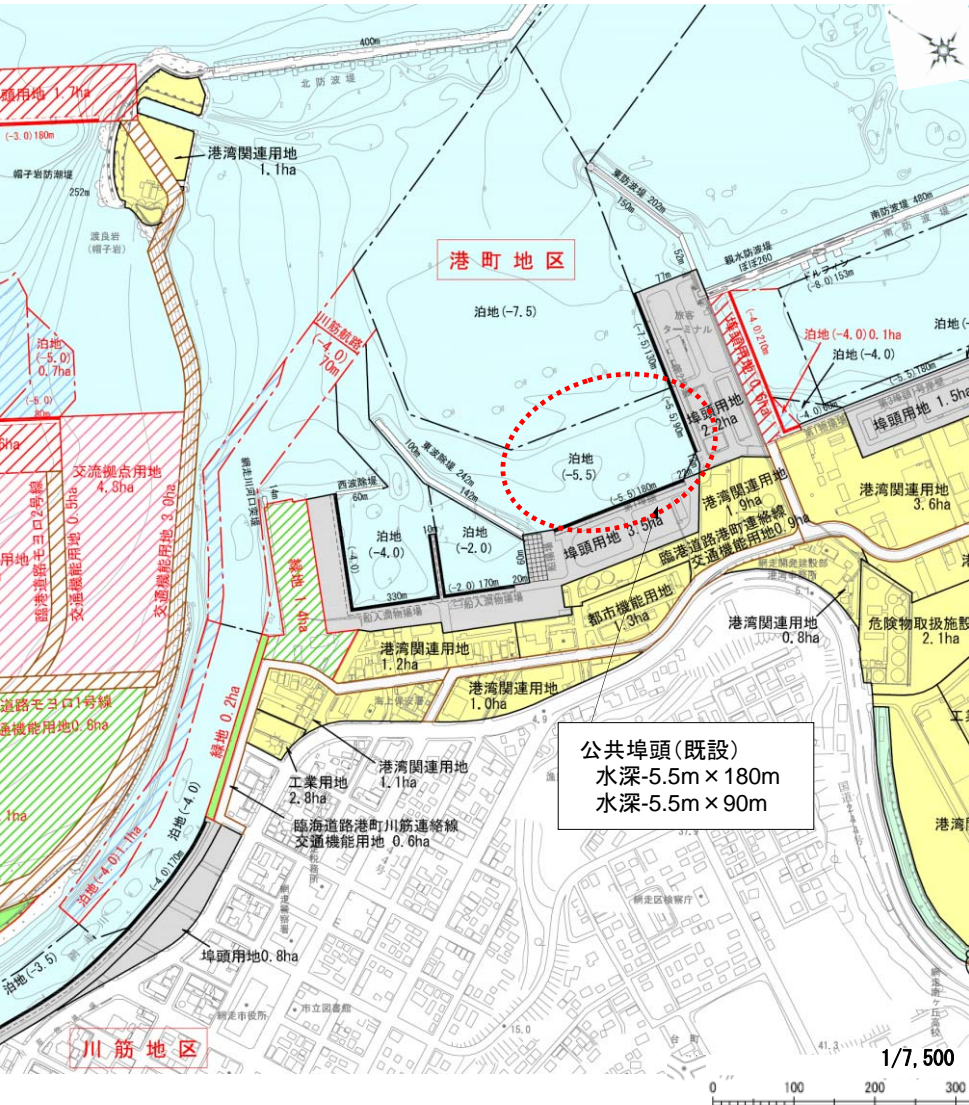
- ①北網地域の内貿物流需要に対応するため、ふ頭用地の拡大と物流機能の拡充・強化
- ⑤市街地近傍での耐震強化岸壁の計画など、大規模地震対策を推進

◆改訂内容

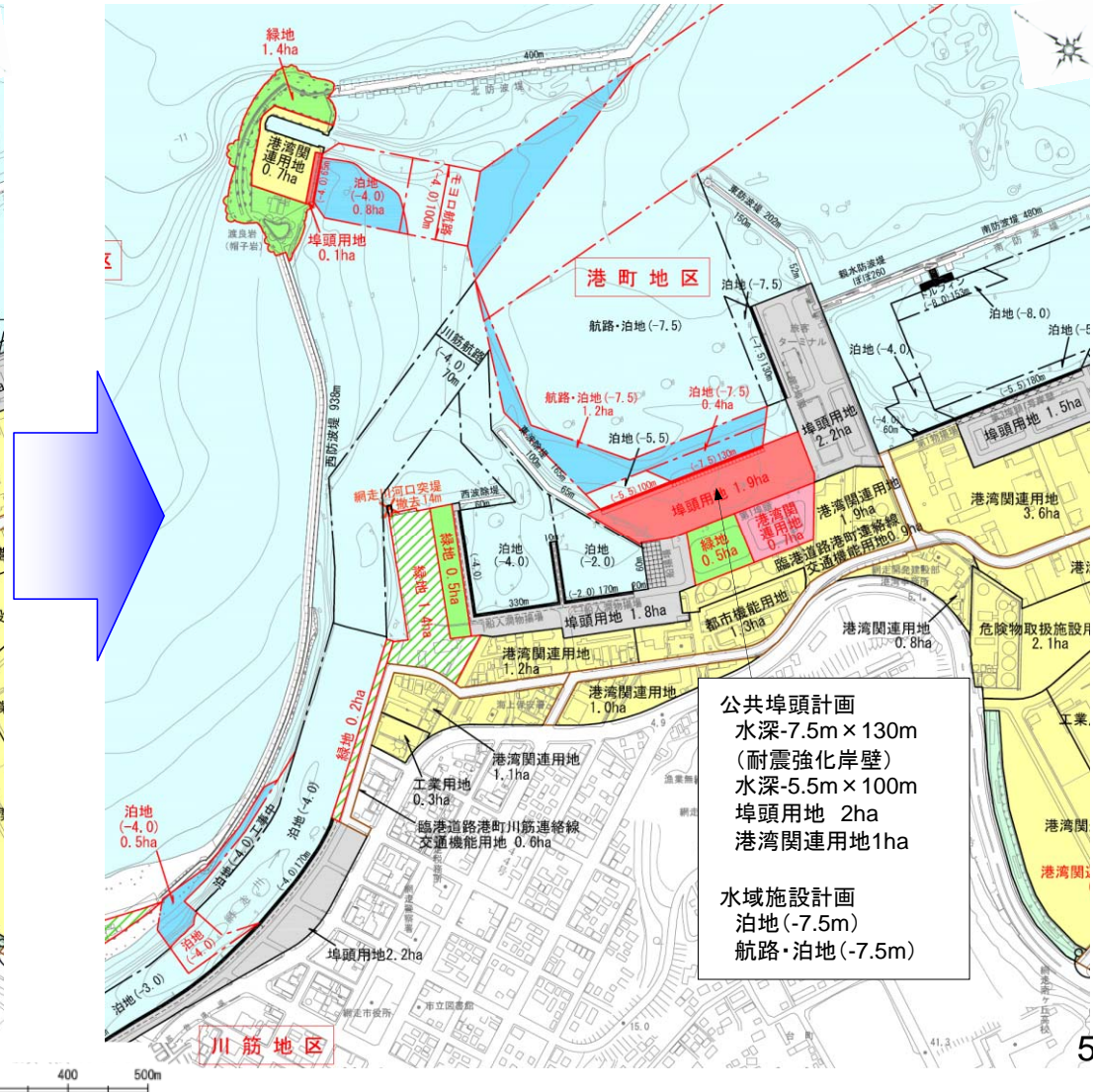
- ①農産物(小麦)の取扱いの増加や軽工業品(砂糖・デンプン)の新規取扱いに対応し、効率的に貨物を取扱うため、老朽化した岸壁を前出しし、**5.5m岸壁、7.5m岸壁及び埠頭用地を計画**
- ⑤同改良に併せ、大規模地震発生時における緊急物資の輸送機能や、経済活動を維持するため、**耐震強化岸壁を計画**



【既定計画】



【今回計画】



港湾計画改訂の概要

◆基本方針

⑥船舶の安全な航行や停泊、荷役作業の安全を確保するため、防波堤の延伸を計画

◆改訂内容

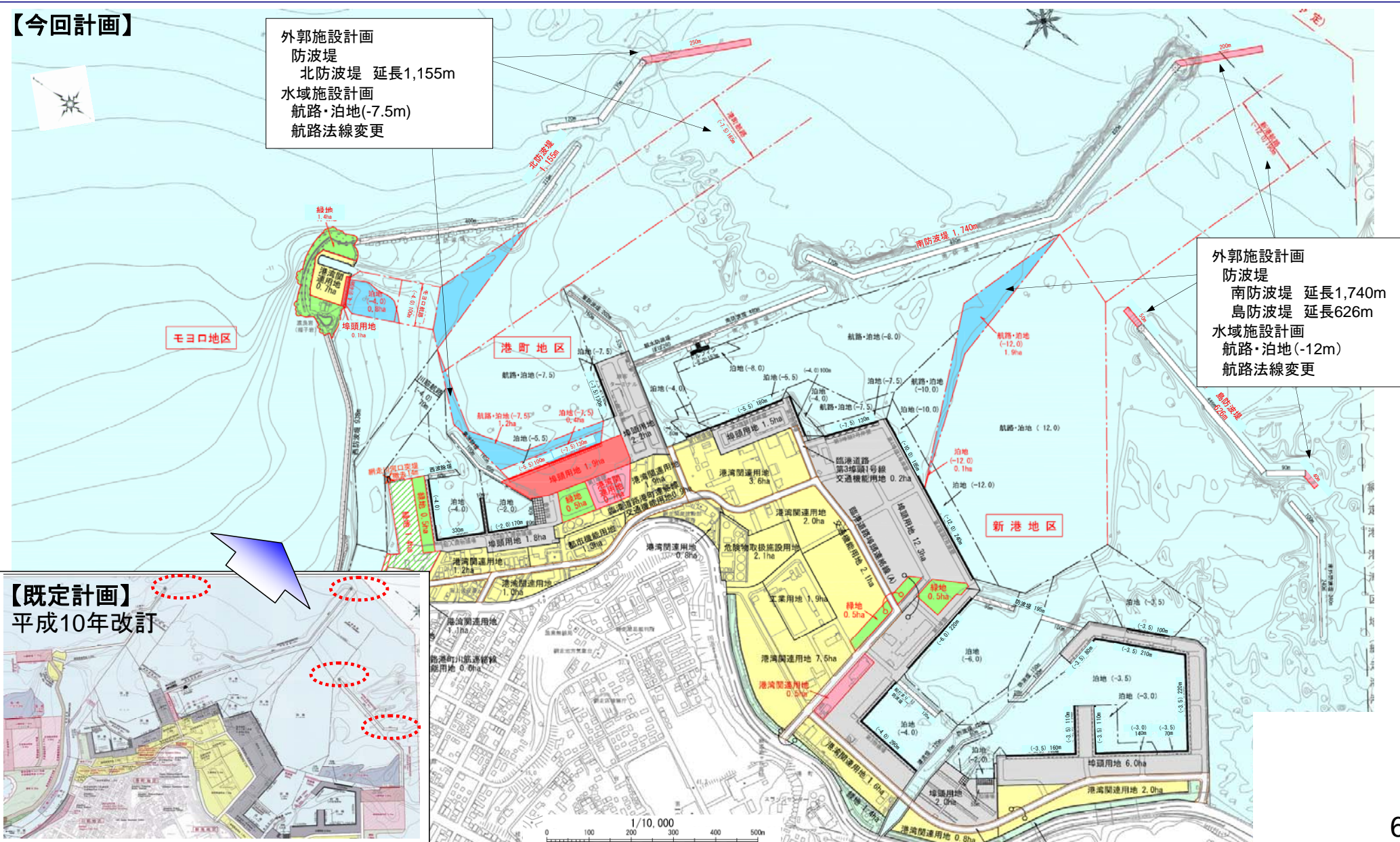
⑥船舶の安全な航行や停泊、荷役作業の安全を確保するため、**北防波堤、南防波堤、島防波堤の延伸を計画**
防波堤の延伸に伴い、**航路法線の変更及び水域施設を計画**

【今回計画】

外郭施設計画
防波堤
北防波堤 延長1,155m
水域施設計画
航路・泊地(-7.5m)
航路法線変更

外郭施設計画
防波堤
南防波堤 延長1,740m
島防波堤 延長626m
水域施設計画
航路・泊地(-12m)
航路法線変更

【既定計画】 平成10年改訂



港湾計画改訂の概要

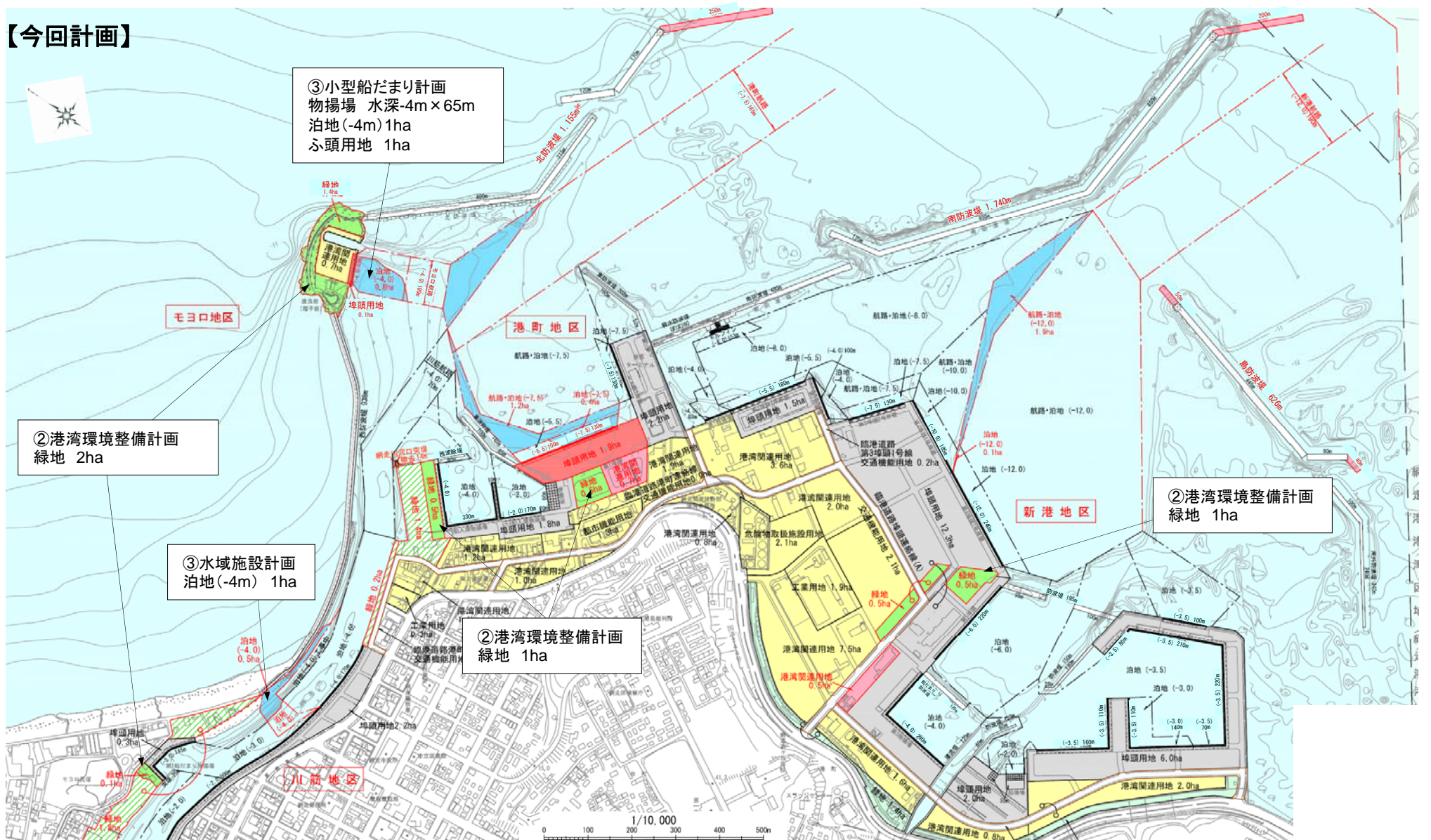
◆基本方針

- ②市民・観光客が憩い・集い・楽しめる親水空間を創造
- ③海洋性レクリエーションの拠点としての機能を確保

◆改訂内容

- ②市民・観光客の憩い・賑わいの場を提供するため、**緑地の拡充を計画** (新港・港町・モヨロ)
- ③流水観光砕氷船の航行の安全性を向上させるため、**水域施設を計画** (川筋)
- 帽子岩へのアクセスを確保するため、**泊地及び物揚場を計画** (港町)

【今回計画】



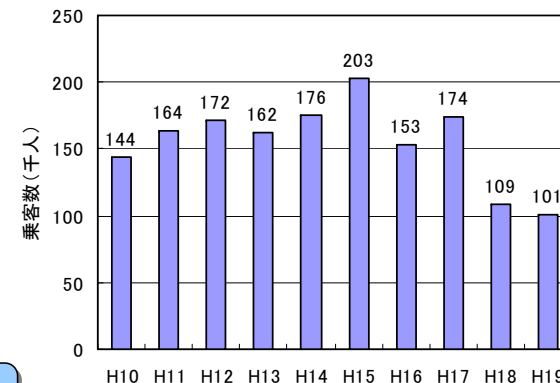
【参考資料】

網走港をとりまく状況（観光振興）

- 網走港には流氷観光砕氷船「おーろら」が就航しており、年間10万人以上の観光客が乗船している。
- 市民と観光客の交流を促進するため、みなと交流拠点・憩いのスペースとして、平成21年1月「おーろらターミナル」を供用開始。
- 北海道へのクルーズ船寄港が増加する中、網走港でも飛島Ⅱ、にっぽん丸等のクルーズ船寄港が定着している。

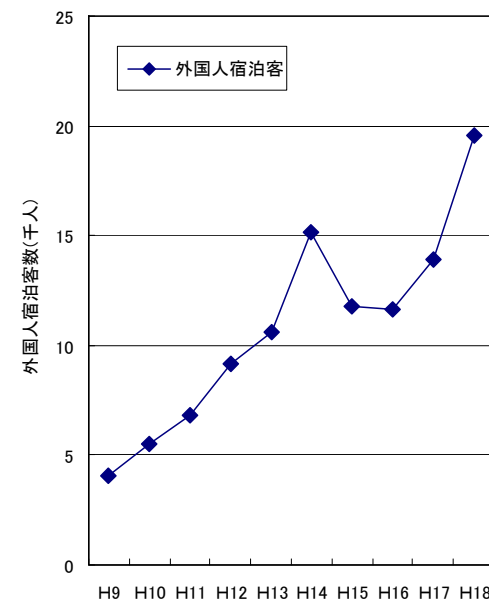


【流氷観光砕氷船の乗客数推移】

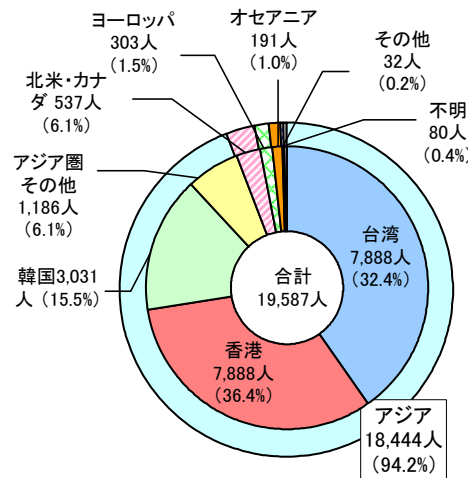


- オホーツク圏は知床世界自然遺産をはじめ、国立・国定公園を有する自然が豊かな地域であり、特に冬はオホーツク特有の流氷により海面がおおわれるという特徴を有している。
- オホーツク圏の観光入込客数は900万人～1,200万人の間で推移。
- 網走市には約170万人の入込客数があり、特に、外国人観光客は、台湾、香港を中心として、10年間で約5倍の増加となっている。

【網走市の外国人観光入り込み客数の推移】



【網走市の国別外国人宿泊客数】



資料:北海道観光入り込客数調査報告書(平成18年)

資料:北海道観光入り込客数調査報告書